

令和4年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立酒田光陵高等学校

<b>学校教育目標</b> 1 進取の気性を持ち、知徳体が調和し、心身ともに健康な人間を育成する 2 高い専門性と国際的な視野を持ち、公益の心を持つ創造力豊かな人間を育成する 3 地域の産業や文化・環境を理解し、地域を大切に思う人間を育成する		<b>重点目標</b> 1 豊かな心と健やかな体の育成 2 社会を生き抜く基盤となる確かな力の育成 3 学校・家庭・地域との連携・協働による開かれた学校づくり
<b>目指す学校像</b> 1 普通教育と専門教育を併せ持つ、学際的な教育を展開する高校 2 特色ある教育活動を展開し、多様な進路希望を実現できる高校 3 公益活動、自然環境の保護、及び国際化に取り組む高校 4 地域と連携・交流し、地域社会の発展を担うリーダーを育成する高校 5 スポーツ・文化活動の地域拠点校としての役割を担う高校	<b>育てる生徒像</b> 1 豊かな心とたくましい体をもち、社会から信頼される人 2 公益の心と高い志を持ち、自己実現を図る人 3 高い専門性と実践力を身につけた、将来のスペシャリストとなる人 4 自分が育った地域を大切に思い、地域を支えていく人	

達成度	A・・・達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
-----	--------	----------	-----------	---------

自己評価(年間)					学校関係者評価		総括	
番号	評価項目	具体的方策と指標・基準等	目標達成状況及び取り組み状況	達成度(前年)	次年度に向けた改善策	達成度		意見・要望等
1	豊かな心と健やかな体の育成	①笑顔とやさしさ、挑戦する勇気を育む教育の推進 ②端正な装いと元気で明るい挨拶の推進 ③心身の健康バランスを育てる部活動の充実	○ コロナ感染防止を徹底し、生徒の安全安心の確保に努め、校内での大規模な感染拡大を防ぐことができた。 ○ ほとんどの生徒は、挨拶や身だしなみ、ルール順守など生活態度を意識した行動をとっている。ただし、ネットモラルや対人関係で指導される生徒もおり、個別の丁寧な指導は継続する必要がある。 ○ 感染防止のため活動が制限される中、各部とも工夫しながら活動し、生徒も心身ともに成長できた。	A (B)	○ ネットを介した問題がいくつか見られたので、ネットモラルの指導は引き続き取り組んでいく。 ○ 対人関係形成に関する指導や施策が必要である。 ○ 生徒の心身の健全な発達と教員の働き方やワークライフバランスに基づいた部活動の適正な運営と活性化に取り組む	A	○コロナ感染防止を徹底し、様々な工夫を凝らした柔軟な対応により、生徒は落ち着いた学校生活を送り成長できた様子が見られ、概ね目標通りの取り組みができたことと評価できる。 ○生徒の様々な悩みへのサポートやネットに関連する諸問題への対応を引き続きお願いしたい。	
2	社会を生き抜く基盤となる確かな力の育成	①社会人基礎力を育てるキャリア教育の充実と評価基準の研究 ②基礎学力の定着に資する、授業及び評価の研究推進 ③生徒の主体的な学びに資する、新たな授業方法の研究と実践	○ 大学や地元企業などと連携・協働した授業や活動により、社会や地域の課題解決に向けた意識を高めるとともに、資格取得でも高い成果をあげ、社会人基礎力を高めることができた。 ○ 共通教科・専門教科及び生徒指導や保健、進路など幅広く研修に参加して指導力を向上させ、学習指導や生徒の進路実現に役立てることができた。	A (A)	○ 共通教科と専門教科及び専門学科間連携・協働した教科横断的な学びを推進する。 ○ 生徒一人一台端末を有効に活用するため、教員のICTを活用した指導力を向上させていく。 ○ 生徒の自学自習の意識を高め、役立てることができた。	A	○ICTの活用や産業界等と連携した実践的な学びが充実し、資格取得や進路希望の実現で高い成果をあげた。 ○学科の領域を超えた教科横断的な学びや産業界等と連携した地域課題解決をより一層充実させていってほしい。	
3	学校・家庭・地域との連携・協働による開かれた学校づくり	①地元を知る学びの推進と学校を核とした地域づくり ②地域貢献に資する教育活動の推進 ③ICTを活用した情報の発信と共有の充実	○ インターンシップや企業見学、企業研修を実施し、生徒のキャリア形成に活かすとともに、地域課題に取り組む意識を高めることができた。 ○ 校務や生徒・保護者への情報発信・連絡ツールとして、ICTを有効に活用することができた。	B (B)	○ 生徒・保護者への情報は、こまめに時機を捉えて発信する。 ○ 来年度設置予定の学校運営協議会を適切に運用して、地域や学校外との連携・協働を進め、生徒の学びの充実に推進する。	B	○ICTを積極的に活用して情報を発信している。 ○保護者が求める学校からの情報が届いていない等、情報発信のさらなる工夫が必要である。	
自己評価及び学校関係者評価の改善点等		○教科横断的な学びや産官学と連携協働した学びを推進し、社会や地域の課題解決に必要な資質能力を育成する。 ○生徒や保護者との円滑なコミュニケーションと地域に向けた本校の魅力発信を推進する。						○今年度の卒業生は、コロナが感染拡大する中、様々な制限のある高校生活であったが、高い進路実績を残すことができた。特に国公立大学は、前年度の10名に次ぐ過去2番目に多い9名が合格した。  ○ICTの活用をさらに進め、生徒の学習や教職員の業務効率化を推進する。  ○保護者・中学生・地元企業など地域と幅広く魅力を発信していく必要がある。